

令和8（2026）年度
入学試験問題
（1月入試）

一 般

専 門 科 目

受 験 上 の 注 意

1. 試験開始の合図があるまで試験問題を開いてはいけません。
2. 受験者は、すべて試験監督員の指示に従ってください。
3. 試験時間内の退室はできません。
4. 解答用紙のみ提出してください。
5. 試験時間は60分です。

（会計専門職研究科）

会計専門職研究科
令和 8 (2026) 年度入学試験問題 (1 月入試)
【 簿 記 】

【1】 次の取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、次の中から最も適切と思われるものを選ぶこと（解答に用いない勘定科目も含まれている）。なお、当社の決算日は 3 月 31 日である。また、各取引に関連はないものとする。計算にあたって端数が生じる場合には、円未満を四捨五入すること。

現 金	当 座 預 金	普 通 預 金	売 掛 金	クレジット売掛金
貸 倒 引 当 金	建 設 仮 勘 定	売買目的有価証券	差 入 保 証 金	建 物
建物減価償却累計額	備 品	備品減価償却累計額	買 掛 金	未 払 金
所得稅預り金	賞 与 引 当 金	資 本 金	資 本 準 備 金	その他資本剰余金
売 上	受 取 手 数 料	貸倒引当金戻入	固定資産売却益	有価証券売却益
有価証券利息	保 険 差 益	仕 入	広 告 宣 伝 費	支 払 手 数 料
貸倒引当金繰入	貸 倒 損 失	減 価 償 却 費	修 繕 費	固定資産売却損
賞 与	研 究 開 発 費	創 立 費	開 業 費	有価証券売却損

1. 建設中の建物が完成し引渡しを受けたので、これに伴い工事代金の残額 6,000,000 円を小切手を振り出して支払った。なお、同建物に対しては工事代金としてすでに 9,000,000 円を支払っている。
2. 会社の設立にあたり、発行可能株式数 10,000 株のうち 2,500 株を 1 株あたり 30,000 円で発行し、その全額について引受けと払込みを受け、払込金額を普通預金に入金した。なお、払込金額のうち「会社法」で認める最低限度額を資本金として計上するとともに、株式発行のための諸費用 230,000 円を現金で支払った。
3. 得意先が倒産し、同社に対する売掛金 600,000 円が回収不能となった。同社に対する売掛金のうち、300,000 円は当期の販売から生じたものであり、残額は前期の販売から生じたものである。なお、貸倒引当金の残高は 320,000 円である。
4. 当期首に取得原価 960,000 円、期首減価償却累計額 540,000 円の備品を 280,000 円で下取りに出し、新たに備品 1,100,000 円を購入した。購入価額と下取価額との差額および新たに購入した備品の設置費用 20,000 円については翌月末に支払うこととした。なお、減価償却は直接法で記帳している。

会計専門職研究科
令和 8 (2026) 年度入学試験問題 (1 月入試)
【 簿 記 】

5. 決算に際して、当座預金口座と当座預金勘定の残高を確認したところ、差異が生じていた。原因を調査したところ、次の事実が判明したため、必要な修正仕訳を行う。
 - ① 決算日に売上代金 400,000 円を銀行の夜間金庫に預け入れていたが、銀行の営業時間が終了していたため、当日の入金として処理されていなかった (入金時に記帳済み)。
 - ② 広告費の支払いのために振り出した小切手 250,000 円が当社の金庫に保管されていた。
6. 11 月末日、売買目的で保有している額面総額 1,000,000 円の社債 (利率 : 年 0.36%、利払日 : 3 月末と 9 月末) を額面 100 円につき 98.90 円の裸相場で売却し、売却代金は売買日までの端数利息とともに現金で受け取った。なお、この社債は当期首に額面 100 円につき 98.40 円の裸相場で購入したものであり、端数利息は月割計算する。
7. 前期末決算において賞与引当金 300,000 円を計上していたが、本日、従業員に賞与 950,000 円を支給し、源泉所得税 97,000 円を控除した残額を普通預金より支払った。
8. 不動産の賃借契約を解約した。契約締結時に支払った敷金 (保証金) 700,000 円について、原状回復のための費用 200,000 円を差し引かれた残額が当座預金口座に振り込まれた。
9. 商品 300,000 円をクレジット払いの条件で販売した。なお、販売代金の 3%にあたる金額を信販会社へのクレジット手数料として販売時に計上した。
10. 特定の研究開発にしか使用できない備品 700,000 円と実験用の薬剤 100,000 円を購入し、代金は小切手を振り出して支払った。

会計専門職研究科
令和 8 (2026) 年度入学試験問題 (1 月入試)
【 簿 記 】

- 【2】 【資料】にもとづいて、解答用紙の精算表を完成しなさい。なお、会計期間は×7年4月1日から×8年3月31日までの1年間である。

【資料】 決算整理その他の事項

- 決算にあたって調査したところ、次の事実が判明した。
 - 現金の実際有高は65,400円であった。帳簿残高との不一致の原因は不明であるので、適切に処理する。
 - 売掛金のうち20,000円は得意先が倒産したため回収不能であった。この売掛金は前期の掛け売上により生じたものであり、貸倒れとして処理する。
- 売上債権の期末残高に対して2%の貸倒れを見積もる。なお、貸倒引当金は差額補充法により設定する。

- 売買目的有価証券の内訳は次のとおりである。

	帳簿価額	時 価
A 社株式	75,500 円	72,000 円
B 社株式	64,000 円	68,500 円
C 社株式	49,500 円	49,800 円

- 期末商品棚卸高は次のとおりである。なお、売上原価の計算は「仕入」の行で計算する。また、棚卸減耗損と商品評価損は売上原価に振り替えない。

	帳簿棚卸数量	実地棚卸数量	帳簿価額	正味売却価額
商品 X	400 個	395 個	@110 円	@120 円
商品 Y	300 個	290 個	@120 円	@105 円
商品 Z	100 個	100 個	@115 円	@130 円

- 有形固定資産の減価償却を次のとおり行う。

建物：耐用年数は30年、残存価額はゼロとして、定額法により計算する。

備品：償却率を年20%として、定率法により計算する。
- 満期保有目的債券（額面金額：500,000円、利率：年1.5%、償還日：×9年3月31日）は、×4年4月1日に額面100円につき98.80円の裸相場で購入したもので、償却原価法（定額法）により評価しており、当期も同様の処理を行う。

会計専門職研究科
令和 8 (2026) 年度入学試験問題 (1 月入試)
【 簿 記 】

7. 保険料は毎年同額を 8 月 1 日に向こう 1 年分 (12 ヶ月分) として支払っているものであり、前払分の再振替仕訳は期首に行っている。保険期間の未経過分について必要な処理を行う。
8. 給料の未払分が 50,000 円ある。
9. 支払利息は借入金の利息であるが、当期分の未計上額が 4,000 円ある。

受験番号					

※ 氏名は記入しないこと!

解答用紙 (専門科目)

【簿記】

評 点	/ 100
--------	-------

熊本学園大学大学院
会計専門職研究科

【1】

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				

受験番号					

※ 氏名は記入しないこと!

解答用紙 (専門科目)

【簿記】

熊本学園大学大学院
会計専門職研究科

【2】

精 算 表

×8年3月31日

勘定科目	残高試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
現金	67,400							
当座預金	550,000							
受取手形	223,000							
売掛金	287,000							
売買目的有価証券	189,000							
繰越商品	82,000							
建物	7,500,000							
備品	670,000							
満期保有目的債券	497,600							
支払手形		240,000						
買掛金		343,000						
借入金		300,000						
貸倒引当金		28,000						
建物減価償却累計額		750,000						
備品減価償却累計額		241,200						
資本金		6,500,000						
利益準備金		700,000						
繰越利益剰余金		314,300						
売上		6,817,000						
有価証券利息		7,500						
仕入	5,320,000							
給料	690,000							
保険料	160,000							
支払利息	5,000							
	16,241,000	16,241,000						
雑()								
()繰入								
有価証券評価()								
棚卸減耗損								
商品評価損								
減価償却費								
()保険料								
()給料								
()利息								
()								